

女性教職員活躍推進だより

第14号 令和8年2月12日 教育庁職員課

★★ 女性管理職ロールモデル紹介 ★★
福島県立川俣高等学校長

加藤 香洋 さん

加藤さんは、令和6年度4月から校長として、同校で勤務されています。



職員課主幹兼副課長
渡辺隆博が話を伺いました！！

Q1:これまでの経歴を教えてください。

教諭として採用され、初任校の福島南高校を振り出しに、湯本高校、遠野高校、福島高校では主に担任を務めました。

その後、教育庁教育総務課では管理主事、橘高校では教頭、教育庁高校教育課で再び管理主事としての勤務を経て、校長に昇任しました。

会津支援学校長として3年間、現在は川俣高校で2年目となりました。

Q2:ミドルリーダーの経験はありますか。

担任としての経験が長く、主任等のミドルリーダーの経験がなかったため、教頭になる時には不安もありましたし、ためらう気持ちもありました。

しかし、ミドルリーダーを経験していないからこそ、管理職として主任等を担っている先生方を心から尊敬し、信頼することができました。今も校長として、ミドルリーダーの先生方が働きやすいようにしよう、また最高のパフォーマンスを発揮できるようにしようと努めています。



Q3:昇任審査を受験したきっかけを教えてください。

教育総務課で教育行政の経験をさせていただきましたが、その時の先輩方との出会いが大きかったような気がします。当時の上司から、「香洋さん、ためらう気持ちはわかるけど、人生の扉は他人が開くんだよ。きっとできるからやっごらん。」という言葉いただきました。

これまで、管理職になることに躊躇する思いもありましたが、その言葉を受け、今までお世話になった方々の期待に応えて御恩返しをしよう、いただいた言葉を信じて進んでみようと思うようになりました。

Q4:管理職のロールモデルとなる方はいましたか。

誰か一人ということではなく、教育総務課での勤務当時、しなやかでいきいきと働く女性の課長や先輩方の決断力、同僚の先生方の働きぶりなど、上司や先生方の素晴らしい所をパッチワークのようにつなぎ合わせ、お手本にしてきました。

今でも「こういうとき、あの先輩だったらどうするだろう、何と言うだろう。」と考えることがあります。大きな決断をする時や大事な場面で話す時などには、先輩方の立ち居振る舞いを羅針盤に、私を励まし勇気づけてくださった言葉を御守りにしています。

Q5:教頭時代にワーク・ライフ・バランスで工夫していた点がありますか

ワーク・ライフ・バランスは難しかったです。

今振り返ると、完璧な教員、完璧な母親ではない自分を許し、泥臭く、一生懸命、社会で役割を果たす姿を見せることが、私なりの精一杯の子どもたちや家庭への向き合い方でした。

子どもたちが社会人になった時に、「お母さんも頑張っていたんだな。」と認めてもらえればいいと思っていました。

Q6: 教頭時代に印象に残っていることは。

当時の校長先生に、「ここがロドスだ。ここで跳べ。※」という言葉いただきました。

「前はこうだった」ではなく、「今ここでやれることをやりなさい。」ということなのだろうと、自分なりにその言葉を理解して職務にあたりました。

「ミドルリーダーの経験はないし。」「今まで教育委員会で勤務していたし。」といった言い訳を自分に許すことなく、「今は、教頭として赴任したこの学校で、精一杯のことをやりなさい。」という、厳しくも温かいメッセージだったと思います。

※イソップ物語からの成句。

Q7: 教頭として先生方との関わりで

大切にしてきたことは何ですか。

校長先生が示した学校経営・運営ビジョンを実現するために、先生方に目的と根拠を示しながら説明し、理解してもらうことを大切にしました。

先生方は、生徒の成長や、生徒のためになることにやりがいを感じます。私自身、担任をしていた時、当時の教頭先生からクラスの生徒の成長を認めていただいた時は、心強かったことを覚えています。

だからこそ、生徒の変容を先生方にフィードバックし、自身の教育実践が生徒の成長や学校の教育目標にどのように結び付いているか、先生方がどのように組織に貢献していただけているのか、あるいは学校は先生方に何を期待しているのか、ということをお機会あるごとに伝えるように心がけました。

Q8: 校長として、

大切にしていることは何ですか。

会津支援学校長として赴任しましたが、これまで特別支援学校で勤務した経験がないからこそ、副校長や教頭、学部主事等を信頼して職務にあたりました。以前から、「仕事は、一人のエースがやることではなく、チームでやるものだ。」と思っていましたが、あらためて、チームで仕事をするのが、一番大切だと実感することができました。

また、学級担任が生徒たちや保護者にしっかり向き合えるように、学級担任を支え、チームとして対応することを心がけています。

また、先生方の強みや良さを引き出し、チーム力を最大化できるよう努めています。難しさもありますが、先生方がチャレンジしたプロジェクトが成功し、生徒が成長したり、学校が前進したりすることを実感すると、やはりうれしいですね。



Q9: 女性教職員の皆さんに

メッセージをお願いします。

ミドルリーダーや管理職など、大きな役目を与えられることに対して、「私なんて。」とためらうその心こそが、誰かに寄り添う優しさになります。

実績や完璧さより、あなたのその真摯な思いがチームを動かし、学校の未来を拓くのです。

「人生の扉は、他人が開く。」その言葉を信じて一歩踏み出した先には、想像もなかった豊かな景色が待っていました。

福島教育も、自分自身の人生も、しなやかに楽しみ、味わい尽くす。そんな日々を、皆さんと共に歩いていけたら幸せです。

加藤香洋さん、ありがとうございました。

次回の女性教職員活躍推進だよりの発行は、来年度の7月頃を予定しています。今後も、福島県で働く女性教職員の活躍を伝えていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。

～女性教職員活躍推進だよりの発行に当たって～

福島県教育委員会は、女性が職場においてその力を発揮できるよう、「女性教職員活躍推進プラン」を策定し、教職員のニーズに即した女性活躍のための対策を計画的に推進します。また、男女共同参画の実現に向けて、人事の公平性・公正性を確保しつつ、女性教職員の管理職への登用に努めることで、令和7年度までに、女性管理職の割合を教頭・副校長で19%、校長で13%とすることを目標としています。